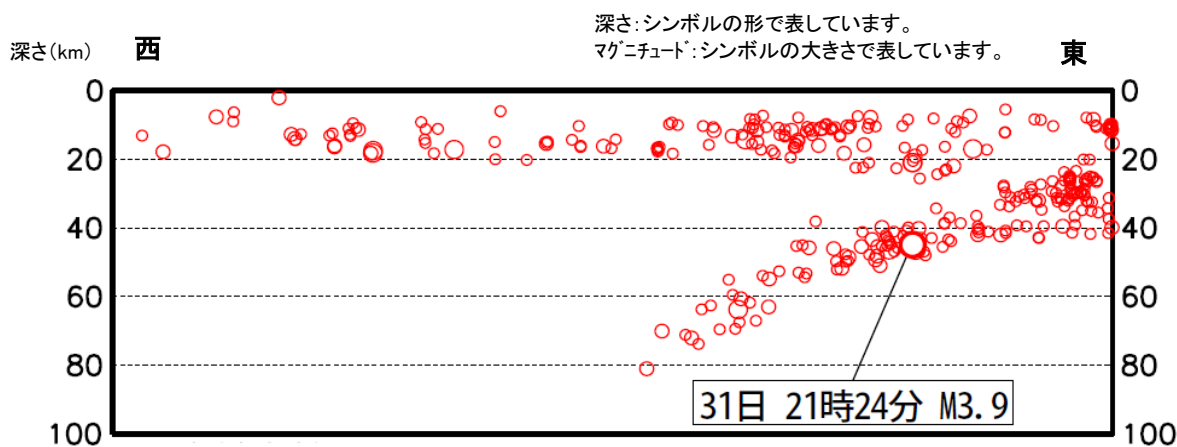
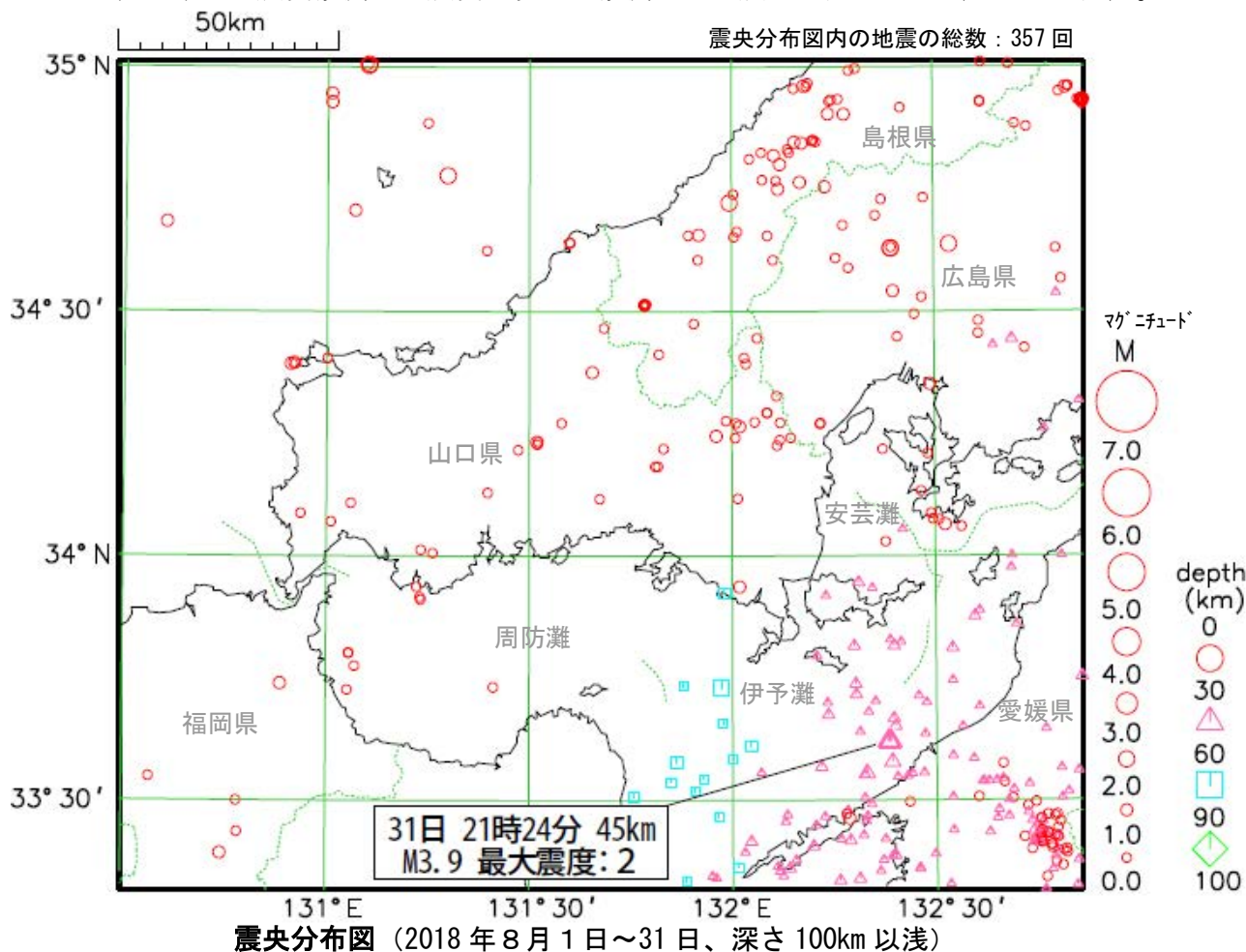


山口県の地震活動概況 (2018年8月)

平成30年9月11日
下関地方気象台

8月に山口県内の震度観測点で震度1以上を観測した地震は1回でした(7月は3回)。



断面図 (震央分布図の東西方向を投影面とし南方向からみた図です)

本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点(河原、熊野座)、米国大学間地震学研究連合(IRIS)の観測点(台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東)のデータを用いて作成しています。

伊予灘

31日 21時 24分に発生した伊予灘の地震 (M3.9、深さ 45km、最大震度 2) により、山口県では岩国市、光市、柳井市等で震度 1 を観測しました (図 1)。

今回の地震の震源付近 (図 3 領域 b) で発生した地震により、山口県で震度 1 以上を観測したのは、2015 年 7 月 3 日 (M3.9、深さ 43km、最大震度 2) により、柳井市で震度 2 を、光市、上関町、田布施町、平生町、周防大島町で震度 1 を観測して以来です (図 2～4)。

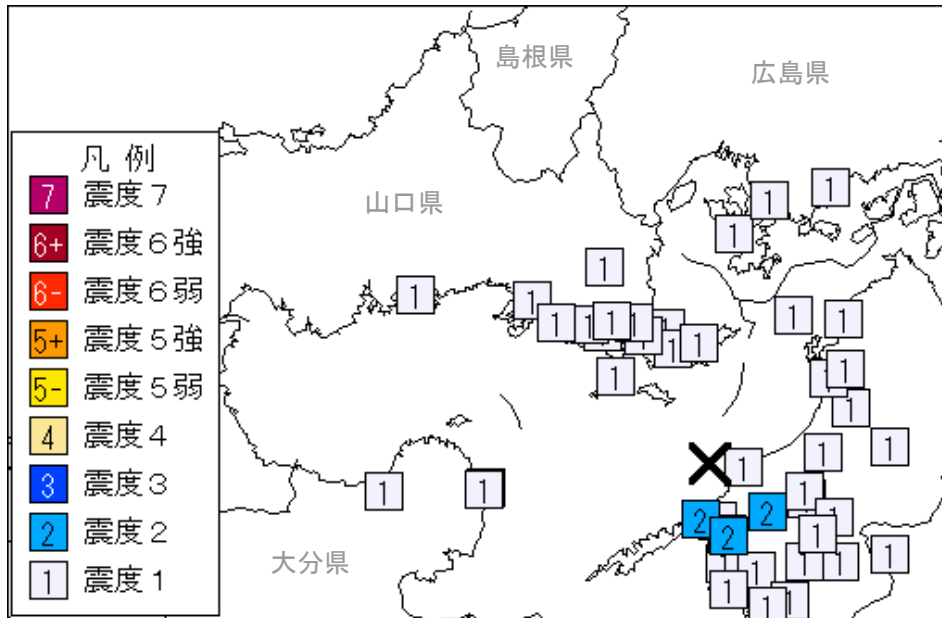


図 1 31日 21時 24分に発生した M3.9 の地震の震度分布図 (観測点別、× : 震央)



図 2 震央分布図
(1997 年 10 月 1 日～2018 年 8 月 31 日、
深さ 30～100km、M≥2.0)
※2018 年 8 月の地震を赤色で表示

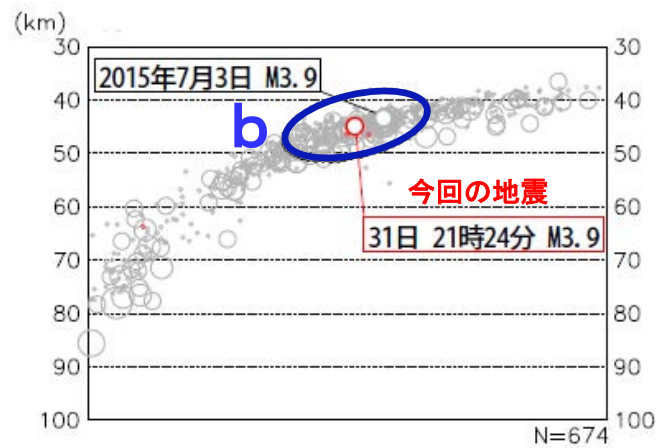


図 3 領域 a の断面図 (A-B 投影)

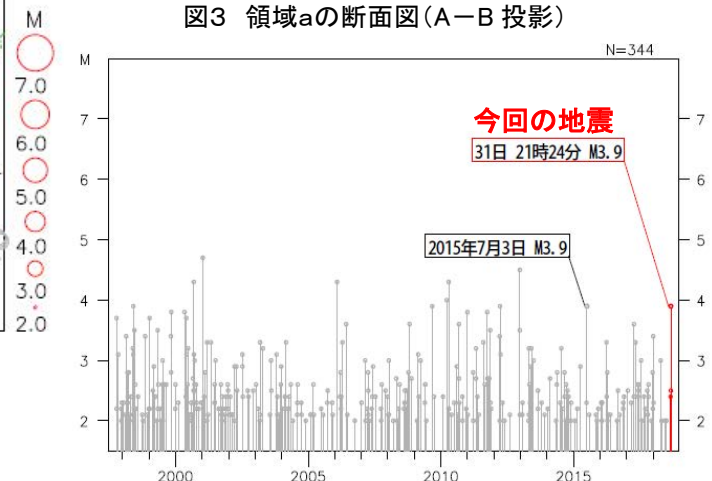


図 4 領域 b の地震活動経過図

山口県で震度1以上が観測された地点

2018年8月1日～2018年8月31日

年月日	時分	緯度	経度	深さ	マグニチュード	震央地名
各地の震度						
2018/8/31	21:24	33° 37.2' N	132° 23.0' E	45km	M3.9	伊予灘
山口県	震度1	岩国市玖珂総合支所＊,光市中央＊,柳井市南町＊,柳井市大畠＊ 上関町長島＊,田布施町下田布施,平生町平生＊,周防大島町平野＊ 周防大島町小松＊,周防大島町西安下庄＊,周防大島町久賀＊,防府市西浦＊ 下松市大手町＊				

- ・「＊」の付いた地点は、地方公共団体または国立研究開発法人防災科学技術研究所の観測点です。
- ・地震の震源要素（緯度・経度・深さ・M）は暫定値であり、データは後日変更することがあります。

震度について

○計測震度計と震度

地震が発生した時に各地の揺れの状況を把握することは、地方公共団体や防災機関による初動対応において大変重要です。

地震による各地の揺れの強さは、全国約4,400か所^{※1}に設置された計測震度計（図1）が測定しています。計測震度計は設置場所での揺れの強さに基づき「計測震度」を算出します。各地の計測震度計が算出した計測震度は気象庁に集約され、「震度階級」（表1）に換算されます。この中で震度1以上の揺れを観測した地点があった場合、気象庁は各地で観測された震度の情報をとりまとめて発表します。

気象庁が発表する震度の情報の利用に当たり、以下のことに留意してください。

- ①計測震度計は設置場所での揺れの強さを測定していますが、地中の地盤や地形の差異により地表の揺れの強さは変わります。例えば、同じ町内でも、震度にして1階級程度、揺れの強さが異なる場合があります。
- ②小規模な地震がごく浅い場所で発生した場合、震源付近の限られた範囲で揺れを感じる場合がありますが、震源付近にある計測震度計で震度1以上（計測震度0.5以上）の揺れとして観測されなかった場合、地震情報は発表されません。

○震度と揺れの状況

図2は、観測された震度とその周辺で発生する現象や被害の目安を示したものです。強い揺れに見舞われると、この図のような被害が生じるおそれがあります。

地震はいつ発生するか分かりませんので、普段から地震への備えを心がけておきましょう。

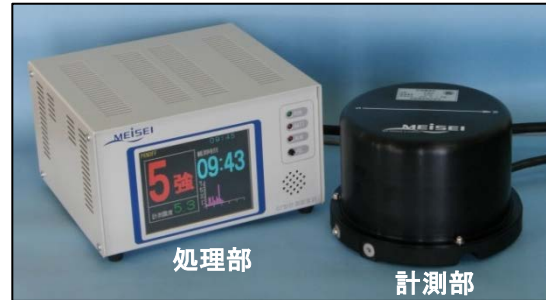


図1 計測震度計の処理部と計測部の例

表1 気象庁震度階級表

震度階級	計測震度	震度階級	計測震度
0	0.5未満	5弱	4.5以上5.0未満
1	0.5以上1.5未満	5強	5.0以上5.5未満
2	1.5以上2.5未満	6弱	5.5以上6.0未満
3	2.5以上3.5未満	6強	6.0以上6.5未満
4	3.5以上4.5未満	7	6.5以上

6弱

【震度6弱】

- 立っていることが困難になる。
- 固定していない家具の大半が移動し、倒れるものもある。ドアが開かなくなることがある。
- 壁のタイルや窓ガラスが破損、落下することがある。
- 耐震性の低い木造建物は、瓦が落下したり、建物が傾いたりすることがある。倒れるものもある。

6強

【震度6強】

- はわないと動くことができない。飛ばされることもある。
- 固定していない家具のほとんどが移動し、倒れるものが増える。
- 耐震性の低い木造建物は、傾くものや、倒れるものが増える。
- 大きな地割れが生じたり、大規模な地すべりや山体の崩壊が発生することがある。

7

【震度7】

- 耐震性の低い木造建物は、傾くものや、倒れるものがさらに多くなる。
- 耐震性の高い木造建物でも、まれに傾くことがある。
- 耐震性の低い鉄筋コンクリート造の建物では、倒れるものが増える。

図2 震度と揺れの状況（震度6弱～7を抜粋）

※1 地方公共団体や（国）防災科学技術研究所の観測点も含みます。

震度と揺れの状況に関する詳しい説明は、以下のURLからご覧ください。

<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/shindo/kaisetsu.html>

地震への備えについては、以下のURLからご覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/svd/eew/data/nc/shikumi/tokusei.html#2>